



「みずいく」を通して、水道と環境を考える

宇部市水道局 藤本健二

朝、小学校に向かう子どもたちを見かける。肩には、ランドセル、そして、水筒。

私(50代)が子どもの頃は、水筒を持って行く人はおらず、喉が渇けば、学校の蛇口をひねり、ごくごく水道水を飲んでいました。

機会があり、子どもたちに尋ねたところ、家庭でも、水道水をそのまま飲むことは少なく、中には、ボトル飲料しか飲まないという子もいました。

その原因は主に、「水質に対する漠然とした不安」や「におい」ではないでしょうか。

実際には、宇部市の水道水は、厚生労働省が定める、51項目の水質基準を満たし、さらに、自主検査27項目をクリアしている安全な水です。

また、「におい」についても、広瀬浄水場では、24時間、365日、活性炭を使い、においの素となる物質を除去するなど、さまざまな取り組みをしていますが、広く市民の皆様には伝わっていませんでした。

そこで、平成24年から、水道水PR行動「みずいく」を行っており、とりわけ、将来にわたる水道ユーザーである子どもたちへのPRに力を入れています。

まず、地球上には、多くの水が存在しますが、ほとんどが海水や氷河であり、水道水の素となる河川や湖の水などは全体の0.01%、大変貴重な資源であり、その水量と環境変化に影響を受けやすいこと。

次に、学校や家庭で使われた水道水は、下水道処理場できれいに処理された後、川や海に放流、太陽光で

温められて蒸発し雲になり、やがて、森林に雨を降らせ、少しずつ川に流れてダムに貯まる。その水を浄水場できれいにし、再び水道水となる。この「水の循環」についても、森林の減少や機能低下などが進めば、循環が乱れ、水不足になるかもしれない。

また、宇部市の水道水は、美祢市のカルスト台地から流れ込む、程よくミネラルを含んだ良質な水であり、域産域消が行われていることを学習しています。

これから、本格的な夏をむかえます。皆様もどうぞ、水道水を冷やして飲んでみて下さい。これが、なかなか美味しいのです!!



宇部市の水道水はどこから来るの? 地図と動画で説明します。



「みずいく」では、浄水実験もします。真っ黒な水が透明になると歓声があがります。

「農業消滅」鈴木宣弘著を読んで 食料自給に危機感を

中山間地域の高齢化で耕作放棄地が増加と聞いていますが、東大教授の鈴木宣弘著、「農業消滅」平凡社新書、2021年を読んで、命を支える大切な農業・農家を痛めつける政治経済の在り方に危機感を感じます。「徹底した規制緩和で、食料自給率は38%まで低下。農家の総収入は12.3兆円から9.7兆円へと減少し、低賃金と慢性的な担い手不足が相まって、農業消滅が現実のものとなろうとしている。」

鈴木宣弘氏は、長周新聞2022年2月28日付で、ウクライナ危機が突きつける食料問題という論説を発表しており、小麦輸出で世界5位のウクライナが戦場となり、途上国の飢餓はもとより、日本にとっても切実な問題なのだ

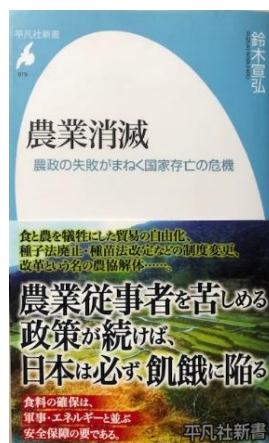
と思います。

農協(JA)HPの隔週寄稿で、鈴木氏は日本の農業、食料需給の問題、農協の果たす役割、消費者の意識改革を迫る記事を公開しています。

<https://www.jacom.or.jp/column/cat647/>

テーマをいくつか紹介すると：

【鈴木宣弘：食料・農業問題／本質と裏側】経済制裁強化で日本自身が経済封鎖されるリスク・「食料危機」の今、どうして「農業潰し」なのか・身近な農地を支え「2022年問題」を乗り越えよう～都市部での食料増産の重要性～農業の問題、共に考えましょう。



文責：H. Murakami

宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 J R宇部線：「宇部新川駅」徒歩7分

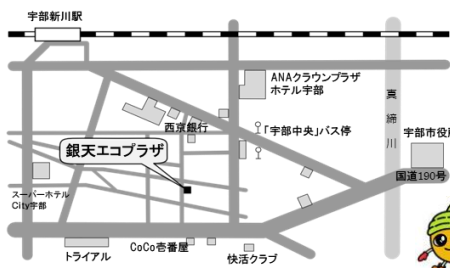
宇部市営バス：「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail ubekuru@gmail.com

開館時間 9時～17時 HPアドレス <http://ubekuru.com/>

休館日 土・日、年末年始 (12月29日～1月3日)



HomePage



facebook



twitter



NPO法人うべ環境コミュニティ

“食推”が取り組む環境にやさしい食生活 ～キッチンから始まるエコな暮らし～

宇部市食生活改善推進協議会 橋本嘉美

「食生活改善推進協議会ってどんな活動をしているの?」と思っている方はいませんか? 私たちは“食推さん”とも呼ばれ、“食”を通して健康づくりを実現していこうと活動しています。日ごろは、地域の子どもから高齢者まで多世代にわたる市民を対象に、健康料理教室の開催や、健康づくりについてのイベント・啓発などを行っています。

2013年からは、宇部市廃棄物対策課との協働で「エコクッキング教室」を開催し“環境にやさしい食生活”に取り組んでいます。

第1回目は、食品ロスとごみ減量をテーマに、①野菜まるごとドライカレー②野菜と卵のスープ、③残ったドライカレーを朝ごはん用にリメイクしたカレーチーズトースト、④簡単ラッシーというレシピでした。野菜はできるだけ皮つきのまま、グループごとにごみを計量し、ごみ減量を意識しながら楽しく調理しました。

また、日ごろの料理教室では、旬の野菜、地元の食材を使うことを心がけ、野菜ハウスで使う燃料や食材運搬用エネルギーの削減をめざしています。毎日のキッチンでは、生ごみの水切り、食器のため洗い、油污れは不用の布・紙などで取り除いておくことなど、エコにつながる工夫をしています。

今年も、11月にエコクッキング教室を開催する予定です。関心のある方はぜひご参加ください。なお、食中毒のシーズンになりました。食品ロスを気にかけて、「もったいない」と古くなった料理・食材を食べることはやめましょう! 食品ロスをなくす取り組みが、健康を阻害しては本末転倒です。

最後に、これからも食推として“環境にやさしい食生活”に取り組めます。市民の皆さま、ご協力をよろしくお願いします!



宇部産レンチョウの調理実習(楠中学校)全員がレンチョウを一匹さばきました!

レンチョウの
ムニエル
(こふき芋と
レモン添え)



分別計量した後、今回は、主要なごみの種類ごとにブルーシートの上に展開した写真を撮り、より視覚に訴える方法をとりました。詳しくは、以下のうべっくるブログを参考にしてください。

http://ubekuru.com/blog_view.php?id=5860,5861,5863,5865,5875, ポスターは5884

なお今年度は以下のような計画を検討中です。

- ①SDGs活動の一環として藤山中学校の中川河口ごみ回収が定着しているが、厚南地区の厚南中学校、黒石中学校にも働きかけて、中川河口において流れ着いたごみのモニタリングと自然体験学習への活用を奨める。
- ②常盤中学校は地元環衛連による常盤海岸西詰め清掃活動に関心を持たれているので、地元のスキューバダイバーや漁業関係者との連携や、教材用ビデオの制作を組み合わせた活動に協力する。
- ③その他、食育、有機農業の重要性、生ごみ減量を組み合わせた特別サロン等の実施を考えたいと思っています。

ポイ捨てごみ等を減らす広報啓発活動

うべ環境コミュニティー 浮田正夫

これまで長年、河口部や海岸等に流れ着いたごみの回収と分別計量作業をしてきましたが、一向に減る気配がなく、やはり元から減らさなければと感じています。そこで昨年度は山口県環境保全事業団の環境保全活動支援事業の助成を受けて、ポイ捨てや不法投棄をなくす広報啓発を目的とした事業を行いました。主な成果として、これまでの経験を活かして、子ども達にポイ捨て防止を訴え、それを家族にも伝えてもらえるようなポスターとボードを制作。宇部市内の36小中学校に配布し、掲示をお願いし、山口市内の41小中学校にも山口市環境政策課の協力を得て、ポスターの掲示をお願いしました。この他、新たな体験として、

①厚東川ダムに流着したフレコンバッグ60袋もの大量の人工ごみを目の当たりにし、中でも固いプラスチックごみが目立ったこと。

②中川河口ヨシ原に堆積したごみを丁寧に回収、約400m²から大袋16袋90kgを持ち帰り、通常通り



2021年8月の大雨で厚東川ダムサイトに永流れ着いたプラゴミ等



代表的なポイ捨てごみNo.1
ペットボトル

2022/03/09

古い(時間が経っている)

新しい(時間が経っていない)